

刻む会

たよりに

No. 14

1996. 4. 13

長生炭鉱の「水非常」を

歴史に刻む会

(代表 山口 武信)

宇部市常盤一丁目九(陣内)

☎〇八三六(二)八〇〇三

追悼式を終わって

代表 山口 武信

一九九一年、第一回目の追悼式を行ってから今年で六回目になる。今年には韓国から七名のご遺族を迎えることができた。来宇の二月二日は思いがけない大雪に見舞われて、迎えに行った自動車が大幅に遅れて、結局本体が着いたのは正午前になってしまった。そのため予定されていた山口県庁の表敬訪問はできなくな

った。
下関の韓国総領事より、全員が昼食をご馳走になって、その後で韓国総領事館を表敬訪問し、終了後直ちに宇部市役所の訪問を行った。市役



犠牲者に供え物をささげる韓
国人遺族 宇部市西岐波で

7/4 朝日

「水非常」の犠牲者悼む 長生炭鉱の遺族 宇部市からも韓国から

所では、例年通りの形で市側との交渉に望んだ。佐々木県議の挨拶があり、その後、山口、遺族会の揚玄氏が続いて挨拶をした。市長は他用があるというので、我々の挨拶には何も答えずに、誠に形ばかりの「よくいらっしやいました。気をつけてお帰りください。」というような挨拶を残して、そそくさと退出してしま

った。
市長退任後、私共は、市当局に対して左記のような要請を行った。

一、ピーヤの保存の件については、県の産業文化遺産指定のための努力をすること。

二、歴史的事実としての長生炭鉱「水非常」について現地に碑を建立するための協力をすること。

三、市資料館での旧西岐波村の文書を土曜、日曜など休日に閲覧できるように人員を配し、便宜を図ることについての善処。

四、追悼式には、県からは毎年国際交流室から出席されるが、市

からは一度も出席せず、地元にも一片の誠意も認められない。誠意があるなら三日の追悼式には花の一本も捧げるべきだ。

今回は、出席した会員からも強力にこれらについて発言があり、市も今年は初めて話を聞く姿勢を示した。その後、一行は現地と西光寺を訪問し、それぞれのご遺族のご位牌に対面し、感慨を新たにし、その夜は片倉の久保田旅館に泊まっていた。宇部の初めての夜を温泉で寛いでいただいた。

三日は二時から追悼式を行った。潮はよく干いて雪の心配はなかったが、風は強く寒い一日であった。今年、日本人ご遺族のご姉妹が大阪から出席された。予期していなかったので大変失礼があったかと思うが、今後は、このことについても考えて置かなければならない。

追悼式は、例年通り行われた。揚团长の朗読される追悼の言葉が心に喰い込んで来て、現状打開を急がな

ければとの思いを強くした。今回は、県からも市からも来て献花が行われた。

長生の会館で行われた市民交流会では、広島と島根からの参加があり、いろいろと貴重な発言があった。

この夜は、海員会館で「刻む会」、遺族会の人々との友好に満ちた交流が行われた。しかし、その一方では、今後の遺族の招待をどのように運営していくのか、まだ来日していない人々をどのようにして招待するのか、三〇〇万ウォンの預金残高証明の問題、再度或いは再々度の来宇をどうするのか、また、遺族の中には日本側の運動の進展の遅滞による無力感があることなどが話し合われた。これらの問題は、一時に解決できるものではないので、日本側から、韓国に出向いて行って、現地の問題点を直に肌を感じる必要があること、そのために、韓国の遺族会総会にこちらからも出席する必要のあることなどが確認された。

三日目の二月四日曜日は、午前中は宇部韓国教会の礼拝に出席し、午後下関に向い、関門橋を渡り、門司に行き、海底トンネルを通過して、下関に戻り、日の山に登るという旅程であった。その後で、シーモールで買い物をし、全行程を終わった。連絡船の出向まで待つつもりだったが、揚团长が、別れが辛いのもう帰ってくれとのこと、名残を惜しみながら港を離れた。

今回は、その外に、関釜連絡船の使用では最低五日の日程が必要であるが、公務に就いている者は、五日の休暇をとることはなかなか困難だということ、福岡からの高速艇か、空路による方法を検討する必要があることも分かった。

終わりに、この度も会の皆様はじめ多くの方々の献身的なご奉仕で無事追悼式が終了したことに感謝いたします。

弔 辞

冷たい風が吹いています。

吹雪が荒れています。

いつもこの日になれば、海の彼方から冷たい海の風が吹いて、
悲しき泣き声が、海鳴りに吐き出されます。

10年が過ぎ20年が過ぎ、今は記憶すら出来ない長い歳月が
流れましたが、

あの日の絶叫が冷たい風になり、こちらに荒れています。

あの日の悲しさが雪雨となって、こちらを濡らしています。

あの日のあの苦痛を、海は知っています。

今もピーヤを抱き、あの日を語っています。

お父さん、お母さん、そして私の兄弟たちよ、

今、この瞬間、彼らは歴史を欺いています。

ピーヤは語らず見守っているけれど、かわいそうな彼らは「違
う」と言っています。

お父さんお母さんが通っていた小学校に、可愛い生徒たちが勉
強しています。

ところが、そちらでも彼らは歴史を隠し、歪曲させています。

美しくすばらしいもののみ、歴史を黙って見守ることはありません。

これほど胸の痛む過去も、大事は彼らの歴史であるからです。

ところが、彼らは今も顔をそむけています。

私たちは記憶します。

皆様の暖かい心があるゆえに、

苦痛であった怨念も、雪がとけるように無くなることでしょう。

皆様と手を取り合って、歴史を正しく、一字一字記していきま
しょう。

その時に至れば、海底深いところで、眠りきれなかった靈魂た
ちが、静かに眠れることと思います。

遠い未来の子孫たちは、皆様を記憶することでしょう。

お父さん、私の愛するお父さん、

その時に至れば、かわいそうな彼らを許しましょう。

その日が一日も早くおとずれるよう最善をつくします。

どうぞ見守って下さい。

1996年2月3日

日本長生炭鉱犠牲者大韓民国遺族会

代表 楊 玄

感想文

防府市

山内弘也

追悼式に参加して

追悼式前日は非常に雪が降っていて、遺族の方々の乗った船は大丈夫だろうか、毎年追悼式のときは天候が荒れるというが、犠牲者の方々の無念や怒りが悪天候を呼んでいるのだろうかと考えたりしていました。

しかし、これまでほとんど協力の姿勢を見せてこなかった宇部市が、初めて追悼碑の建設に協力的な姿勢をみせたということが効を奏したのでしょうか、追悼式当日は近年まれな良い天気でした。追悼式は韓国の習わし（チェーサー）に従った形で行われま

した。遺族の方がわざわざ自分で作ったお供えものを持って来られていました。そのための鞆が2つ、3つ。とうがらしや、お餅、韓国で最高級といわれたお酒まで・・・。

追悼式の日の午前中お会いした時には、にこやかに笑っておられた遺族の方々が、ピイヤを前にすると、それまでの思いが溢れでてきたのか、表情が一変しました。そして、追悼式で海に花を投げた時、浜辺に泣き崩れ叫ぶ姿が何とも痛々しく、犠牲者の方の無念は勿論のこと、遺族の方々の空しさ、悲しさが心に深く伝わってきました。

追悼式後の交流会の席などで、事故の後、炭住から叩き

だされ、海岸で生活したという話や、親戚の馬小屋を借りて生活したなどの話を聴き、強制連行で連れて来られて、ポロ雑巾のように使われて、死後も家族が異国の地に、無一文で放り出されたなんて、死んでも死にきれないだろうとあらためて感じました。

真実を明らかにして、正しく歴史に記し、二度とこのようないことが起きないように、起こさないようにしなければなりません。それが、本当の意味での追悼になるのだと思います。





犠牲者をしのび、沖に向かって献花をする遺族ら

長生炭鉱水没事故から51年 海底の死者へ追悼の献花

宇部

韓国人遺族ら100人参列

一九四二年、朝鮮人労働者百三十人余りを含む百八十三人の死者を出した宇部市西岐波の長生炭鉱水没事故の五十四回目の命日である三日、事故の悲劇を語り

ふく料理
「ふた方」
電話二七三三二二〇

継ぐ市民グループ「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」(山口武信代表)が、犠牲者の追悼式を現場近くの長生海岸で行った。今年で五回目を迎える追悼式には、六人の韓国人遺族をはじめ、刻む会のメンバーや市民約百人が参列。遺族を代表して大韓民国遺族会の楊玄副会長(五〇)が「皆さんと手を取り合って、歴史を正しく一字一字記していきます。そうすれば海底深く沈んだ靈魂たちも、静かに眠れることでしょう」と弔辞を読み上げた。

遺族たちは、事故現場の海底炭鉱から突き出た「ヤ(排気塔)がのぞく沖合に向かって、次々と献花をした。叔父二人を事故で失った金海道さん(五三)は「行

来日遺族名簿

犠牲者名	参列者名	住所
楊 壬 守	楊 玄 道	大田市
金 永 根	金 海 道	大邱市
金 東 煥	金 鎮 晃	慶尚北道
全 聖 道	全 錫 虎	大邱市
曹 在 福	曹 順 浩	全羅南道
白 漢 欽	白 澄 子	慶幾道



碑建立、協力したい

旧長生炭鉱事故 韓国人遺族ら要望 宇部市が方針

宇部市の長生炭鉱の「ア」(排気口)の保存の強制連行の実態など歴史資料の公開③謝罪を含めた文言と犠牲者全員の名を刻んだ碑の建立の国際的信頼の回復を求めている。

藤田忠夫市長ら市幹部が対応。「多くの犠牲者のため福を祈ります」と述べたあと意見を聴いた。資料公開は「個人のプライバシーに

影響のない範囲で」とする市に、遺族からは「そんな資料では、事実は出てこない」との意見が出た。一方、碑の建立については「文化的なものであれば、資金面での援助を募金などの形で協力したい」と、これまでにはない積極姿勢を示した。

韓国人遺族は、三日午後二時から現場の長生海岸である追悼式に出席した後、市民交流会などに参加。四日帰国する。



長生炭鉱、水非常、記念日の二月三日が今年土曜日に当たると、この日に追悼式を行うことは数カ月前に決まっていた。昨年一昨年一昨年末に行っていたが、やはり記念日当日のほうが実感が湧くというものだ。そこで韓国の遺族会からの来日日程も二月二日(金)から四日(日)までとし、お互い連絡をとり合い準備期間を送った。

当初一〇名位の方が来日されるとのことであったが、金永鉉会長がどうしても自分が仕事の都合で加われないと言った。これ、さらには孫鳳秀事務局長に交渉したが、これまた日程がとれず引率はできないということであった。結局、楊玄さんが団長格になられ、一行六名で来日されることとなった。人数が減ったことは、韓国内の事情があつていかんともしがたいが、渡航に当たって一定額の残高証明がないとビザが出ないなど、障壁が立ちほだかっているようだ。

さて、心配なことが数々あるなかで、天候のことが最も気掛かりでならない。毎年のこと降雪に悩まされており、何とか穏やかな天気であつてほしいとだれも

が望んでいる。しかしこの冬は例年になり寒さなので、あまり期待はもてず、天気予報を気にしながら一行の来日を迎えることとなった。

* * *

二月二日(金)、いつもより寒い朝。ところどころに乾燥雪が積もっていて、今日の空模様が案じられる。予定では午前七時すぎに到着するはずのマイクロバスが、雪のため一時間以上も遅れて集合場所に着いた。待ち切れず乗用車で下関に向かった者二名。他八名のスタッフは大幅な遅れながらマイクロに乗り込み一路下関へ。しかし、2号線に入った頃から大雪となり、フェリーポートに着いたのは一一時四〇分であった。なんと三時間もロスしたことになり、最悪の事態ではないか。遺族の皆さんには本当に申し訳ない思いでいっぱいである。

一行の中に懐かしい顔ぶれも見える。

予定していた県庁行きは雪のため中止とし、早速焼き肉屋で昼食。これは韓国総領事館のおごりというところで有り難かった。午後は総領事館へ表敬訪問。続いて宇部市役所に向かう。その頃には雪は降

りやんだが、車中で聞くラジオからは全国的な大雪のニュースばかり。

宇部市役所に到着。市長以下、福祉部長らに面談。市長は通り一片の挨拶で退席したため、あとは部長らへの交渉となり、遺族会の要望を再度ぶっつける形となった。最後には、記念碑建設のために市としても協力する旨を約束した。また翌日の追悼会について市側の出席を要請し、一同退庁した。対市交渉はほんの半歩前進が見られたと評価できようか。

その後、西光寺を訪問。位牌との対面をし写真撮影などのち、宿舎の片倉温泉久保田旅館に落ち着いた。ようやく旅装をとき、刻む会スタッフも交えた夕食会となった。数日前に大阪から来宇しておられた遺族の李元宰さん、来日組の一行の皆さん、そして終始通訳を務めてくださる方たち、本当に長い一日をお疲れさま。

* * *

翌日、二月三日。朝、関西から来られた日本人遺族二名の方を河長ホテルで迎え、久保田旅館へ。みんなと合流し、午前中はゆっくり打ち合わせの時間をと

った。昨日とは違って天気はよいが、何しろ風が冷たい。そんな中をレストランに立ち寄り、全員で昼食をとったあと、長生炭鉱跡に向う。冬の海は荒れていたが、潮の状態は予期したとおり最適である。

追悼式は二時開始。テントが設えられたおなじみの式場には、葬服をつけた遺族の皆さんが威儀を正し、その周りに百名を超える一般市民や支援者の方々が集まった。そのなかには韓国総領事館や民団、朝総連の関係者は勿論、県庁国際交流室、そして初めて市役所からも二名来席しておられる。報道陣も一〇社を数えた。式の進行と共に五四年前の悲劇が思い起こされ、遺族の悔しさや悲しみが私たちに伝わり、胸を差して来る。庄巻は『弔辞』の朗読であった。最後は全員が花一輪ずつを海に投じ、追悼の祈りを捧げて式を閉じた。

この後は場所を移して、近くの集会所で市民交流会を持つ。豚汁をすすり、身体を暖めると共に、遺族個人々々からの言葉を聴きつつ懇談の時を過ごした。歴史の証言者に学ぶという感じがする。運

動の困難さを感じながらも、少しは展望の兆しが見える話題ではあった。

さて、来日スケジュールの中で恒例となった歓迎懇親会が、この日の夕方開かれた。二日目の宿舎となる宇部海員会館には支援者らの手作りによる料理が運ばれ、日韓四〇名の参加者が会食。一同は飲むほどに酔うほどに打ち溶け合い、両国の歌を歌い、踊り、笑い、言葉のカベを越えて一つ心になっていった。楽しい会が終わるまでには、かなりの時間を要したことは言うまでもない。

* * *

二月四日は日曜日。今回ご遺族の中にキリスト教の方はおられなかったが、在日大韓宇部教会では、昨年同様、一行を日曜礼拝に招待して下さった。お昼は韓国料理。教会でゆっくりくつろいだ後は刻む会のメンバー数名と合流し、再びマイクロボスに乗り込む。帰りは時間の余裕をとり、いったん関門大橋をわたり門司へ、そして関門トンネルをくぐって下関に戻り、日の山ヘドライブ。関門海峡を眼下に眺望し、滞日最後のひとときを楽しんで頂いた。

今回団長代理を務めて下さった揚玄さんは、最初かなり緊張されていたが、その重責を見事に果たし終え、ホッとした表情をしておられた。車中でお話した折も、なかなかしつかりした識見をもっておられることが感じられ、私たちとしても心強かった。遺族の皆さんとはまだまだお話ししたかったが、もうお別れの時間である。

下関ではシーモールに三〇分間立ち寄りショッピングの後、フェリーのポートビルでいよいよお別れの時を惜しんだ。再来日の方が多かったとは言え、今回の印象はどうだっただろうか。手短に今後の方針を遺族の方々と話し、次は日本から遺族会総会に出席させて頂くことを約束する。五時過ぎ、一行に再会を誓ってお別れした。

いろいろな準備不足や不備な点があるなかで、周囲の支援者や市民の方々のご協力のおかげでなんとかやり終えることができ、感謝でいっぱいである。この運動が今年こそ前進が図られるよう、願ってやまない。

事務局担当 陣内厚生

1996年 長生炭坑 水引 常盤炭坑 招入 会計報告

No. _____
1996. 3. 31

収 入	支 出
遊族 招入 (2500円)	招入 遊族 旅費 補助
1,063,336	180,000
追構式 現場 カンパ (550円)	宿泊費 (15日 旅費 2食1住)
11,100	69,980
カンパ 小計	(1泊 1食 1信)
1,074,436	22,700
歓迎 入組 会費	食費 (2/3 昼 軽食)
29,000	14,008
	(2/4 昼 1食 1信)
	3,000
	土産代 (700円)
	11,175
	追構式 工二ヶ一 費用
	24,945
	レツラカ一 (単借入費)
	86,250
	ガソリン = 5円
	3,753
	志願料 全 駐車 料 代
	2,100
	火の山 D-7 500円
	2,400
	歓迎 入組 会 (1泊 1食 1信)
	41,290
	料理 打 打 料 費 (変法 別)
	37,611
	会場 費
	5,000
	常務 各 名 費 近 近 喜 近 近 喜 近 近 喜
	16,730
	2世 - 印刷 1000 信
	28,210
	振替 預 手 費 24
	2,070
	集 込 代 (1 遊 族 入 組 増 加)
	8,000
	1,103,436

1996. 3. 31 現在

収 入 及 引 算 残 高 1,103,436 - 559,222 = 544,214 円